JOYAMA NEWS

University of Teacher Education Fukuoka
Campus Magazine

vol. 57
2025 Winter
Joyama通信
福岡教育大学広報誌

国立大学法人
福岡教育大学

特集1 教員採用試験合格状況

特集2 留学経験者へのインタビュー

特集3 学校の先生になろうプロジェクト

特集 教員採用試験合格状況

本学は、九州・沖縄地方における教員養成の拠点大学として、生涯にわたり学び続ける有為な教育者や、実践力のある質の高い教員を養成するという使命を担っています。学生一人ひとりが自分の夢を実現できるように、教職員一同、彼らの学びとキャリア形成支援を全力でサポートしていこうと、日々、試行錯誤しながら工夫を行なっております。

さて、令和6年度実施の教員採用試験の合格状況では、高い合格実績を収めました。特に、今年度は、合格者数が前年度を上回り、過去最高となりました。

今年も先輩達に続き多くの学生が、「教員になる」という夢を現役合格という形で実現しています。これは学生たちが、入学当初から「高い志」を持って採用試験に臨み、継続した努力の賜物と言えるでしょう。一方で、自分の思う進路に向かって臨時的任用教員（常勤講師や非常勤講師など）を希望し、「福岡教育大学講師等希望者名簿」に登録するなどのステップを踏んだ学生も少なくありません。自分の思う、真に挑戦したい未来に向かって進んで行ってほしいと願っています。

キャリア支援センターでは、全学的な立場からキャリア形成支援を行っています。2年次から4年次まで「教員採用試験のための特別講座」などを開講し、進路相談、筆記試験、面接、集団討論、模擬授業対策に至るまで、きめ細かい指導が連続発展的に行われ、学生のチャレンジを力強くサポートしています。これらの取組は、キャリア支援センターのスタッフ、とりわけ、最前線であたたかく見守って下さっている就職支援アドバイザーや特命教授の先生方のご尽力によるものです。先生方は、全員、校長職経験者であり、苦心している学生たちが明るい表情になるように彼らをサポートし、不安を軽減し、勇気づける体制を組み、日々の対応をして下さっています。

結びとして、教育は公共性の高い営みとして、社会から高い期待を集めています。本学は教員養成の拠点大学としての責務を果たし、その期待に応えるべく、今後も、社会から求められる教育人材を養成し、地域の教育の発展に貢献していきます。

キャリア支援センター長　清水　知恵

Joyama News
通信 Joyama News
福岡教育大学広報誌
University of Teacher Education Fukuoka Campus Magazine
vol.57

CONTENTS

02 特集
教員採用試験合格状況
合格者の声
教員採用試験合格に惜しくもあと一歩届かなかった人へ
09 教員採用試験説明会の取材レポート
12 特集
留学経験者へのインタビュー
14 特集
学校の先生になろうプロジェクト
16 福岡教育大学演劇部ってどんなとこ?
17 サークル紹介
ソフトテニス愛好会
ゆかいくらぶ
18 福教大NEWS
20 教員紹介&学生から見た先生の魅力
国語教育研究ユニット
荻野 千砂子教授
21 第36回 福教大卒OB&OG紹介
福岡教育大学附属福岡中学校
柚木 大樹さん
22 TOPICS
アンケートに答えて
福教大オリジナルグッズをGET！
編集後記
福岡教育大学基金のご案内
23 キャンパスからの便り

教員採用試験合格状況

令和6年度実施の教員採用試験の出願及び合格状況は、〔表1〕のとおりです。出願者数は昨年度より減少したものの、入学時から4年次までの高い教員志望度を反映して、昨年度よりも多くの合格者を出すことができました。教員採用試験に向けた日々の努力が実を結び、高い合格率を維持しています。

また、自治体別の合格者の内訳は〔表2〕のとおりです。昨年度と比較すると、福岡県・北九州市・福岡市・熊本県・熊本市が増加し、九州・沖縄地区全体での合格者数は昨年度を上回りました。

〔表1〕公立学校教員採用試験の校種別合格状況

（令和6年11月5日現在）

	小学校				中学校				高等学校				特別支援学校				その他				合　計				
実施年度	出願者数	1次合格者数	最終合格者数	合格率(%)	出願者数	1次合格者数	最終合格者数	合格率(%)	出願者数	1次合格者数	最終合格者数	合格率(%)	出願者数	1次合格者数	最終合格者数	合格率(%)	出願者数	1次合格者数	最終合格者数	合格率(%)	出願者数	1次合格者数	最終合格者数	合格率(%)	合格実人数
R6	397	378	323	81.4	120	108	82	68.3	61	39	28	45.9	57	54	42	73.7	–	–	–	–	635	579	475	74.8	436
R5	398	372	304	76.4	116	101	83	71.6	59	36	21	35.6	66	61	45	68.2	1	1	1	100	640	571	454	70.9	425
R4	397	371	321	80.9	115	101	71	61.7	67	34	16	23.9	36	33	30	83.3	–	–	–	–	615	539	438	71.2	407

※1 出願者数、一次合格者数及び最終合格者数は、延べ人数　※2 令和6年度は、令和6年11月5日現在の暫定値　※3「養護教諭」は、「その他」に計上　※4 各数値は、教育学部4年生、大学院生、教職大学院生及び特別専攻科生の状況

〔表2〕公立学校教員採用試験の自治体別合格状況

（令和6年11月5日現在）

自治体 / 実施年度	九州・沖縄											小計（九州・沖縄）
	福岡県	北九州市	福岡市	佐賀県	長崎県	熊本県	熊本市	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	
R6	156	49	119	12	17	14	17	7	6	8	3	408
R5	149	47	117	12	21	11	8	13	8	14	4	404
R4	161	46	111	11	11	8	13	5	5	16	4	391

	山口県	広島県・市	岡山県・市	島根県	香川県	愛媛県	兵庫県	愛知県	横浜市	東京都	その他	合計（全国）
R6	10	16	5	6	4	4	2	1	4	2	13	475
R5	7	17	4	2	1	0	1	3	2	4	9	454
R4	9	20	4	0	2	3	0	4	1	0	4	438

※1 数値は、自治体ごとの最終合格者数（延べ人数）　※2 令和6年度は、令和6年11月5日現在の暫定値　※3 各数値は、教育学部生4年生、大学院生、教職大学院生及び特別専攻科生の状況

特集 教員採用試験合格状況

合格者の声

福岡県教員採用試験
小学校(小中一貫)　合格

初等教育教員養成課程 4年

北川 楓弥（きたがわ ふうや）さん

福岡県立東筑高等学校出身

サークルの同期と

①福教大での学びについて

教育実習

私は3年次に附属小学校、４年次に附属中学校に教育実習に行きました。この実習の経験が自身を大きく成長させたと思っています。1、2年次までは指導案作成や模擬授業などしていましたが、本実習で実際に子どもたちと向き合って授業をしてみると全く思い通りにならず悔しい思いもしました。その中で、授業準備の大切さや、子どもたちの実態把握など実習を経験しなければ分からない教師の仕事の難しさを知った一方で、授業や子どもたちとの関わることの楽しさを知ることができました。福岡教育大学は教育実習が充実しているので、在学中に希望制の実習なども果敢に挑戦しても良いかと思います。

教員採用試験対策

私が教員採用試験に合格できたのは、採用試験対策講座があったからだと思います。福岡教育大学は教員採用試験対策がかなり充実しており、それぞれの県や市に分かれた細かな指導を受けることができます。私は1次試験が免除だったため、２次試験の対策講座を特に頑張りました。北九州市では、模擬授業、集団討論、個人面接と3つの試験がありましたが、対策講座でそれぞれの試験に沿った対策をすることができたので、試験本番では自信を持って臨むことができました。また、この対策講座では、同じ志をもつ多くの友人に出会うことができました。教室を借りて模擬授業や面接練習を一緒にするなど、同じ熱量で採用試験に向かって切磋琢磨できた仲間を作ることができたのもこの対策講座のおかげだと思っています。

キャリア支援センターにも私はお世話になりました。3年次の後期からキャリア支援センターの先生方に進路についての相談をしたり、採用試験に向けては志望理由や自己分析の添削をしてもらったりしました。親身になって話を聞いてもらえたので自分の進路選択をしっかりと決断することができました。在学生は採用試験の際、キャリア支援センターに行ってみることをおすすめします。

②教員として働くことへの意気込みについて

私は春から北九州市の教員になります。教員生活に向けて今は多くの不安がありますが、どんな子どもたちに出会えるのか、どんな教師生活を送るのかという楽しみな気持ちがあります。大学生活では教育実習、サークル活動、ボランティア活動など4年間の中で貴重な経験を積むことができました、また、かけがえのない仲間や尊敬する先生方など多くの人々との出会いがありました。この４年間での学びや経験、出会いは必ず自身の糧になっていると思います。4月からは、子どもたちに寄り添い、信頼されるような教師になれるようにこれまでの学びを活かして日々、精進していきたいと思います。

教育実習での写真

学生選手権の写真

福岡市教員採用試験
中学校社会科 合格

中等教育教員養成課程
社会科専攻 4年

こ いで りょう
小出 凌さん

福岡県立城南高等学校出身

学部のメンバーと

①福教大での学びについて

私は小学生の頃から教員になりたいという夢を持っていました。きっかけは算数の授業の教え合い学習で教えることの楽しさと魅力に気づいたことです。その気持ちは高校生になるまで変わらず、夢を実現するために福岡教育大学への入学を決意しました。在学中の４年間で教育に関して多くの経験と学びを得ることが出来ました。その中から今回は教育実習と教員採用試験対策に絞って振り返っていきたいと思います。

教育実習

大学生活の中で一番私に影響を与えたのはやはり教育実習です。私は４年間で4回の実習に参加しましたが、特に印象深かったのが３年の附属実習です。実習に行くまでなんとなく持っていた自信と日頃考えていたこんな授業をしてみたいなという考えがいかに甘かったのか思い知らされました。最初の授業では時間管理もうまくいかず、生徒のよく分からないという表情が今でも鮮明に頭の中に残っています。そんな中でも実習校の先生と話し合いながら授業を改善していき、同じ班員の頑張っている姿にも刺激を受けて、実習最終日まで全力でやりきることが出来ました。もちろん嬉しい思い出も多く、生徒とふれあう事の喜びや日記に自分の授業を面白かったと書いてくれたときの感動も忘れられない思い出になりました。

教育実習を経て、教員という職業の魅力を感じると同時に今の自分に足りないものを知ることが出来ました。この経験が教員になるというぼんやりとした夢を明確な目標に変えてくれたと思っています。

教員採用試験対策

自分は教員になりたいという強い意志を持っていたため、3年生の夏頃から教員採用試験への勉強を行っていました。早い時期から勉強を始めたことが採用試験の結果に繋がったと考えています。大学では多くの過去問の貸し出しを行っており、過去問を探す苦労もありませんでした。加えて福岡教育大学の採用試験対策講座が私に力を付けてくれました。特に模擬授業や面接は評価のポイントや改善点を見つけるのが非常に難しいのですが、担当の先生方は多くのアドバイスや何が重要なポイントなのか詳しく教えてくださる方なので、不安はなくなり自信を持って試験に臨むことが出来ました。この講座は福教大ならではの強みであり、これがなければ私は合格できなかったと思っています。

②教員として働くことへの意気込みについて

今まで目標にしていた教員として働くという瞬間がもうすぐ目の前まで迫っており、そのために多くの準備をしてきました。ここからどんな生徒と出会えるか、どんな成長を見届けられるかなど考えると非常に楽しみな気持ちで胸が一杯です。しかし、教師となってすぐ完璧な授業や生徒指導が出来るなどとは思っていません。むしろこれからも多くの失敗を経験していくと思っています。大事なのはその経験からどれだけ学び、改善して生徒たちによりよい教育を出来るような教師になることだと思っています。そういった意味で生徒たちと共に日々学び、成長し続けられる教師であり続けるように日々努力していきたいと思っています。

教育実習の様子

合格者の声

福岡県教員採用試験特別支援学校
小学部　合格

特別支援教育教員養成課程　初等教育部
言語障害児専攻　4年

伊﨑（いざき） 彩奈（あやな） さん

福岡県八女高等学校出身

実習班の仲間と

①福教大での学びについて

教育実習

私は附属小学校と、特別支援学校の2校で教育実習をさせて頂きました。教育実習に行くまでは、不安な気持ちが大きく、とても緊張していましたが、事前の準備から教授だけでなく、実習先の先生からも多くのサポートをして頂き、無事に実習を迎えることが出来、私にとって大学生活の中で一番大きく濃い学びとなりました。実習中は、思うように授業が行かず落ち込むこともありましたが、実践を通して自分の良さや課題に気づいたり、やっぱり子ども達のことが大好きという気持ちを再認識したりと、本当に多くの気付きや学びを得ることが出来、教師になりたいと改めて感じるきっかけとなりました。実習先の先生方にも本当に手厚く御指導して頂き、実習を通して実際に自分が教師になる姿を具体的にイメージすることが出来、今まで大学で、座学で学んでいただけだった知識をどのように活かしていくのかも感覚を掴むことが出来ました。このように実習が充実している点は、福教大の大きな強みであると感じています。

教員採用試験対策

私ははじめ、教員採用試験対策とは何をすれば良いのか分からず、一人では何も進めることが出来ていませんでした。特に、一次試験は推薦で免除だったため、友人が一次試験の勉強を進めているのに、自分は何も出来ていないと、焦る気持ちが日に日に大きくなりました。そんな時にお世話になったのが、教員採用試験対策講座です。私は福岡県の教員採用試験を受験したので、この講座では、二次試験対策として、キャリア支援センターの先生方に、模擬授業と面接試験についての対策をして頂きました。講座では、教員採用試験対策のコツやその県独自の面接のポイント、過去の先輩方の受験記録から作成した過去問を用いた実践練習等、一人で勉強していても分からなかった細かい所まで、一人一人に合わせて丁寧に教えて頂き、実践の場も沢山作って頂きました。キャリア支援センターの先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。この講座のおかげで自信を持って二次試験当日を迎えることが出来ました。教員採用試験をこれから受験する後輩の皆さんには、是非一人ではなく、沢山の仲間と励まし合い、先生方のお力もお借りして頑張って欲しいと思います。

②教員として働くことへの意気込みについて

私は春から、福岡県の特別支援学校教員として働きます。夢だった教師という仕事に就き、これから新しい環境で沢山の子ども達、先輩の先生方、そして同期に出会うことが楽しみですが、やはり不安な気持ちもあります。残りの期間、大学生活の中で学んだことを振り返り、「常に子ども達のために」考えて、行動できる先生になる準備を進めていきたいです。時には壁にぶつかったり、悩んだりすることもあると思いますが、諦めず、常に前を向いて努力できる人になりたいです。そして、春からは、常に一人一人の子ども達に寄り添い、子ども達に信頼してもらえる立派な先生になることを目指して頑張ります。

吹奏楽部の同期と

学校法人白水学園くすの木幼稚園
幼稚園教諭採用
初等教育教員養成課程
幼児教育選修　4年

木村（きむら） 愛実（まなみ）さん

福岡県筑紫高等学校出身

①幼児教育選修での学び

少人数でアットホームな雰囲気の幼児教育選修で、同じ志をもつ仲間達と沢山の思い出を作りながら、楽しく学びのある4年間を過ごしました。授業では、理論はもちろん、実践型の授業も多く、知識を得るだけでなく、実践を通して経験を積むこともできました。また、3週間の附属幼稚園での教育実習では、実際に現場に行ったからこそ、これからの自分の課題や、自分なりに幼稚園教諭として大切にしたいことを見つけられたと思います。ルームでは、自分が興味のある絵本をテーマとした研究を行いました。研究が難航することもありましたが、寄り添ってくれる友人や、終始丁寧なご指導と温かい激励をしてくださった指導教員の先生のおかげで、諦めることなく、納得のいくまで研究をすることができました。友人達と先生方のおかげで非常に充実した大学生活を送りました。

授業で道路にお絵描き

幼稚園教諭に決めたきっかけ

昔から小さい子が大好きで、お世話をするのが好きだったため、将来は子どもに関わる仕事に就きたいと思っていました。幼児期の子どもに関わる上で、小学校での教育についても知りたいと考えたため、幼稚園教諭の免許と小学校教員の免許の両方を取得することができる福岡教育大学に入学しました。そして、理論を学び、幼小連携についての課題を見出したり、教育実習やボランティアに参加し、実際に子ども達と関わったり、現場の先生方の声を聞いたりすることを通して、より一層、幼稚園教諭になりたいという思いが強くなりました。特に、附属幼稚園での教育実習で、3週間という短い期間でも、子ども達が成長する姿に喜びを感じたり、子ども達の姿から新たに学ぶことや考えさせられることも多く、そのような日々に楽しさを感じたりしました。このことが幼稚園教諭になることを決めた1番のきっかけであると思います。

福津市立神興幼稚園「GO!GO!ようちえん」への参加

就職活動について

4月頃から福岡県の幼稚園についての情報を集め始め、気になる園があれば、連絡をし、見学に行ったりボランティアに参加したりしました。また、8月頃に福岡県の私立幼稚園と認定こども園が参加する就職説明会に行きました。そして、その就職説明会の中で気になった園を後日見学し、自分が就職したいと思う園を探しました。私は、4月から9月まで多くの園に見学に行き、特に気になる園は、さらにその園について知るためにボランティアに参加しました。説明を受けるだけでは分からなかった実際の園の雰囲気を感じることができたり、子ども達の姿を見ることができたりしたため、ボランティアに参加して良かったと思っています。

②幼稚園教諭を目指す後輩に一言

4月から「先生」という立場で実際に子ども達と一緒に過ごすことになります。不安もありますが、どんな毎日になるのかとてもワクワクしており、楽しみです。子ども達一人一人と向き合い、子ども達と共に成長していくことができる幼稚園教諭になります。

幼稚園教諭や保育士を目指している皆さん、就職についてまだ分からないことも多く、不安も大きいと思います。しかし、「どうしよう」と迷ったときには、躊躇わずに行動し、困ったときにはぜひ、友人や先生方に相談してみてください。きっと大きく前に進むことができると思います。夢の実現に向けて日々努力を重ねている皆さんが自分に合った素敵な園を見つけることができるよう応援しています。

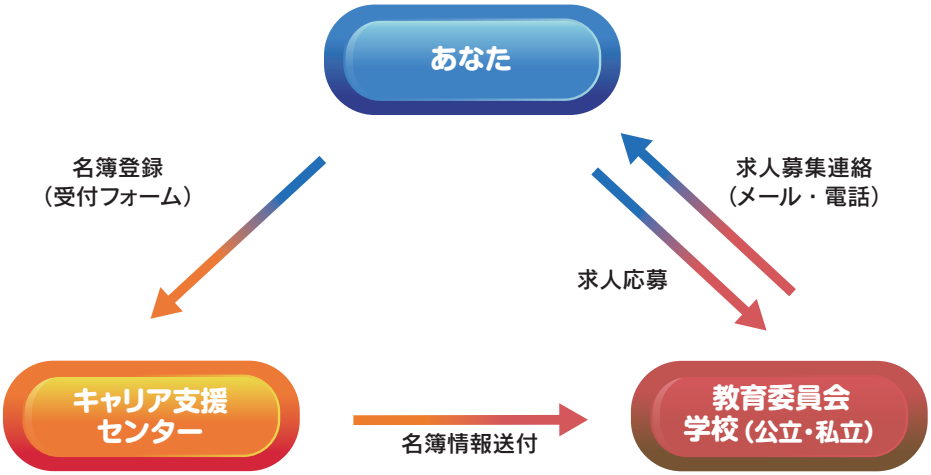
教員採用試験合格に惜しくもあと一歩届かなかった人へ

原卓也就職支援アドバイザー

教員採用試験合格を目指してがんばってきたが、惜しくもあと一歩届かなかった人もいます。
大切なことは、まずここで教師を目指す気持ちや信念をもう一度確かめることです。
そして、自分の課題はどこか、何を伸ばせばいいのかという自己分析を改めて行うことです。
自分の目標をしっかり定め、具体的な方策を考えて実行していくことで、今後の生活をよりよい充実したものにしていきましょう。具体的な進路選択の例をご紹介します。

選択肢の例	特徴
①公立学校の講師に就職	教育現場で経験を積み、教師としての実践力（学級経営、指導力など）を身に付ける機会に恵まれています。収入を得られるのもポイントです。働きながら教員採用試験に向けた受験勉強を行うことになるので、筆記試験のための勉強時間作りに努力や工夫が必要です。
②私立学校の教員・講師に就職	現場経験を積んで、教師としての実践力を身に付けられる点や、収入が得られる点は公立学校と同じです。公立学校のような転勤がない学校が多いため、長年にわたって勤務する場合は自分の経験を生かしやすいです。学校にもよりますが、少なくとも一年間は講師（雇用期間の定めのある職）として採用されることが多いです。
③教職大学院へ進学	教職についての理論と実践を深く学ぶことができます。公立学校教員採用試験の受験時に特例措置（試験科目の一部免除、合格後に大学院修了まで採用を待ってもらえるなど）を設けている自治体が増えてきています。進学にあたっては授業料等が必要になります。（奨学金を活用することも可能です。）

「福岡教育大学講師等希望者名簿」に登録しよう！



登録はこちらから

※連絡先変更や情報提供が不要になったらキャリア支援センターへ連絡を！
TEL：0940-35-1249　FAX：0940-35-1759　E-mail：csc-jimu@fukuoka-edu.ac.jp

「福岡教育大学講師等希望者名簿」は、教育委員会等が作成する講師名簿等とは異なり、キャリア支援センターが独自に作成している名簿です。講師を募集する学校等（教育委員会を含む。）に名簿登録者の情報を提供します。学校等から名簿登録者へ直接、求人募集の連絡があります。
講師としての勤務を希望する自治体が明確な方は、それぞれの教育委員会への講師登録手続きも忘れずに行うことをお勧めします。

教員採用試験説明会の取材レポート

キャリア支援センターの取組で、様々な自治体の教育委員会の方を講師等に、教員採用試験の説明会が開催されました。各説明会に参加した学生の声を紹介します。

7月26日（金） 福岡市私立幼稚園連盟就職説明会

参加者の感想

- 福岡市私立幼稚園連盟の説明会を受けて、幼稚園教諭になりたい気持ちが明確になったとともに、幼稚園における就活の一連の流れを理解することができました。
- 就活の一連の流れについては、いつから採用試験があるのか、それまでに園見学以外にどのようなことをしておけばいいのかについて、先輩である先生方のお話から理解することができ、就活に対する不安を解消することができました。

11月15日（金） 福岡市立学校教員採用試験説明会

参加者の感想

- 部活動指導員をはじめとした支援スタッフのサポートなど、教師として　働きやすくなっていることが分かりました。
- 教員採用試験の勉強の仕方について、「同期と問題を出し合いながら、楽しく楽しみながら進めた」という先輩の話を聞いて、友達の多くが教師を目指す教育大のよさを改めて感じました。

11月19日（火） 大分県公立学校教員採用選考試験説明会

参加者の感想

- 大分県の教育の重点施策や、教員の働き方改革の様子が具体的に分かったので、教師の仕事についてより身近に感じ、大学での勉強にやる気が出ました。
- 大分県では教員採用試験で、人物評価に重点を置いていることが分かったので、これからの大学生活に活かしたいです。

12月3日（火） 広島県・広島市公立学校教員採用候補者選考試験実施状況説明会

参加者の感想

- 広島で受験しようと決めていましたが、教育実習後に迷いが生じていました。説明会で雰囲気を知ることができ、またチャレンジしたいと思えました。
- どこを受験するか迷っていましたが、説明を聞き、地元で先生として働きたいという気持ちが強くなりました。

12月10日 火

長崎県公立学校教員採用試験説明会

参加者の感想

- 教員採用試験の時期が年々早くなっているので、早くイメージがつかみたくて説明会に参加しました。これからの大学生活について、やっていくことがはっきりしたのでよかったです。
- 地元の長崎で過ごした思い出がよみがえり、自分も地元で子供を育てていく一員になりたいという気持ちが強くなりました。

12月13日 金

佐賀県教員採用試験説明会

参加者の感想

- 他県出身ですが、佐賀県の受験も視野に入れています。佐賀県の学校教育の方針に共感できたので、前向きに考えていきたいです。
- 佐賀のお話を聞いていると、地元のよさを改めて感じました。福岡で先生になるか迷っていましたが、やはり地元の子供を育てていきたいと感じました。

12月18日 水

北九州市教員採用試験説明会

参加者の感想

- 特別支援学校の先生になりたいと思っていましたが、他校種との併願の仕方など、知らないことをたくさん知ることができ、有意義でした。
- 教員採用試験の具体的な様子がよく分かり、評価のポイントも分かりました。今後の自分をどのように磨いていくのか、ヒントになりました。
- 教員になった後のサポート体制が充実していることが分かりました。

1月8日 水

福岡県教員採用試験説明会

参加者の感想

- 福岡県の教員採用試験の制度のことがよく分かりました。採用試験の過去問研究を行って、対策していくことが大切だと思いました。
- 附属学校や大学院での研修があったり、教育行政での仕事を経験できるなど、教員としてのキャリアにも色々な選択肢があるということを知りました。

1月21日 火

熊本市立学校教員採用説明会

参加者の感想

- 今まで知らなかった様々なサポートがあることを知り、熊本市で受験したいという気持ちが強くなりました。
- 教員はあまり良くないイメージで報道されることもある仕事ですが、説明を聞き、不安が解消されました。

2月27日 木

熊本県公立学校教員採用選考考査説明会

参加者の感想

・熊本県で受験するつもりですが、不安に思っていた日程や採用について聞けて安心しました。
・福教大から熊本県で受験したいと思っている仲間がこんなにいると知り安心しました。皆で頑張りたいです。

説明会後、多くの学生が「『教員になりたい』という気持ちが強くなった。」と聞かせてくれました。

pick up

北九州教師養成みらい塾

「北九州教師養成みらい塾」の出前講座が実施されました。

「北九州教師養成みらい塾」とは、北九州市の教員を目指す学生、北九州市の教育に興味をもつ学生を対象に、教師としての基本的な技術や心構えを学ぶ講座です。北九州市立教育センターと本学のキャリア支援センターが協働し、本学において「出前講座」全2回が実施され、教師としての実践力を高めようとする学生が参加しました。第1回は10月29日(火)5限に「学級づくり」をテーマに、第2回は1月21日(火)4限に「授業づくり」をテーマに開催されました。

どの内容も授業を作る上でとても大切なことばかりで、4年間の大学生活で学んできたことの総復習をしたような気持ちになった。これから訪れる教員生活の中で何度も経験を積み、もっと自信と技術力を身に付けたいと強く感じました。

他学年かつ同じ北九州市の教員を目指す方々とロールプレイや話し合いができ、とてもいい経験になりました。

北九州市が「先生をひとりにしない」を合言葉に支援やサポート体制に力を入れていることを伝えてくれるので、将来教師になることへの支えになりました。

第１回講座の様子

第２回講座の様子

第２回講座の様子

キャリア支援センターの
就職支援についてはこちら→

特集

留学経験者へのインタビュー

令和5年4月に設置されたグローバルラーニングセンター（GLC）では、「本学における国際交流に関する事業の推進」「学生の海外派遣・留学及び本学で学ぶ海外の留学生の支援」「学生及び義務教育諸学校教員の外国語コミュニケーション能力の向上」といった目的の実現に向けて、国際連携部門、留学支援部門、語学習得支援部門の3部門を設け、様々な事業を展開しています。

本学在学中にGLCの講座を受け、留学を経験した卒業生の古賀さん、森山さんにお話を伺いました！

留学をしようと思ったきっかけは？

古賀さん

古賀さん　当時の協定校にリンネ大学（スウェーデン）があって、入った時からここに行くと決めていました。あと、開発途上国と先進国の両方に行きたいと思い、1年生の時にカンボジアの体験に行って初めての海外を味わい、そこからリンネ大学へ行こうと思いました。

森山さん　私はK-POPが好きで、大学の韓国語の授業を受ける中で楽しい、もっと勉強したいと思うようになりました。GLCの韓国講座に参加して、韓国語というよりも食べ物や観光地の話しを聞いて、行ったら楽しそうと思い留学を決めました。

実際の留学生活はイメージしていたものと比べてどうでしたか？

古賀さん　リンネ大学では、留学生は寮に住みますが、ヨーロッパ人は大学の敷地内、アメリカ人とアジア人はバスじゃないと行けない所に割り振られます。人種の隔たりじゃないが、留学生も国ごとにかたまってる感じがあります。皆がそこにいるから共通の言語で話す訳じゃない。英語と日本語しか話せない身としては、ヨーロッパ人の輪に行きづらいような雰囲気がありました。私のルームメイトはスイス出身で母国語はドイツ語だが、フランス語も英語も喋れる方でした。ドイツ人と仲が良く、私がいる時でもドイツ語を使うから、その時は話に入りづらかったです。壁が厚かったというか、疎外感がありました。鋼のメンタルを持ってガツガツ行かないと友達にはなれないと思いました。

そんな中でも印象的なことってありますか？

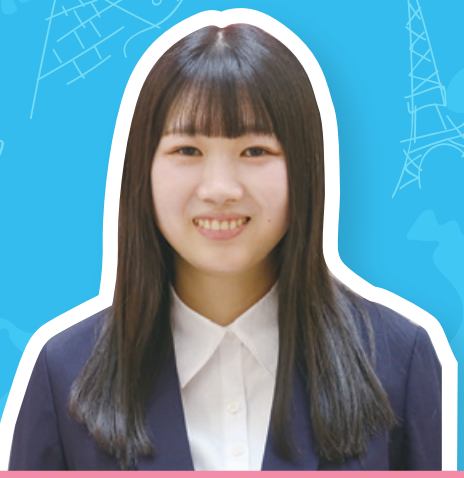
古賀さん　やっぱりルームメイトの存在は大きいです。歳上の大学院生で、頭も良く英語もできる方がルームメイトでした。私は英語にも自信がないし友達もそんなにいなかったし、冬のスウェーデンは暗く寒かったので、部屋に引きこもってました。でも毎日部屋をノックしてくれて「ご飯食べるよ」「今日、何した？」と喋り掛けてくれるんです。一緒にご飯を食べて、映画観て、2人で過ごす時間が多かったから助けられました。

森山さん

森山さん　私はアメリカの人たちも韓国に来てるから、声を掛けてみました。アメリカ人だと英語が基本なのに、お互い韓国語で話ができたっていう状況が面白いと思いました。日本にいるとあまりアメリカ人と話す機会もないので貴重な体験です。

留学、大学の授業、教員採用試験について、どうやってバランスをとっていましたか？

森山さん　大学に入った時から留学したいと思っていたので、3年生までには卒業要件単位を満たすぐらい取っていました。採用試験は特別推薦を見つけて3年生の後半から動き出して、資料を取り寄せたり先輩の話を聞いたり自分で計画立てて実習に行き、終わった3日



古賀くるみ

初等教育教員養成課程　令和6年3月卒業
伝習館高等学校出身
福岡県立小倉東高等学校　英語科教諭
令和５年１月～令和５年６月　リンネ大学留学※

森山優梨子

初等教育教員養成課程　令和6年3月卒業
小倉東高等学校出身
福岡市立志賀島小学校教諭
令和５年３月～令和５年６月　大邱教育大学校留学

後に留学しました。実習期間はかなりきつくて、試験勉強はできなかったです。だから韓国で勉強しました。

古賀さん　私は小中高の一種免許を全部取りたかったので、1年生の時から前期も後期も常に単位をマックスで取っていたから、3年生までは結構な授業数でした。3年生後期ぐらいにほぼ取り終わって、その3月ぐらいに採用試験のことを考え始めて、参考書を買いました。留学はコロナで見通しが立ちにくかったが、行けるかも、となった時期でした。

GLCができて良かったと思いますか？

森山さん　留学したいと思ったのはGLCの講座があったからです。そこで韓国人の先生と話せました。GLCに行くと「いらっしゃい」みたいに温かく迎えてくれて、先生ともいろいろお話できたし、韓国に興味を持ってる学生が集まるので韓国の話ができました。先輩も韓国に行くための勉強をしてたので、先輩とも繋がれました。授業だとほぼ同学年しかいないけど、講座に行くと縦の繋がりができるからすごく良かったなと思います。

古賀さん　私は英会話講座を受けてて、それこそ普段英語を使う機会も少なく、読む・書くは自分でできるけど話す相手がいないので、「喋るのに慣れる」という意味ですごく良かったと思います。そんなに長い時間ではないので、バイトの後とか隙間時間にサクサクできるから良かったです。

留学の前後で変わったことはありますか？

古賀さん　日本の良さも改めて気付けました。当たり前が当たり前ではないんだなと思います。いろんな国の人と関わって褒めてくれたりして自分の良さにも気付けたし、価値観も変わりました。

森山さん　韓国語が喋れるようになったのが一番変わったところです。最初は自信なかったけど、今は博多周辺には韓国人がいっぱいいて、そこで自分から話せるようになったのは一番変わったなと思います。自分から進んで行動する大切さをやっぱり改めて知りました。

教員になって経験が生かせそうですか？

古賀さん　面白い話ができそうです。文化とか海外に興味を持たせられる引き出しを増やしたような感じです。

森山さん　福岡市は韓国と姉妹校があるので、総合の時間とかで交流できたらなと思います。

留学を考えている後輩へメッセージを！

古賀さん　「留学したら価値観が変わる」という言葉は、行く前まではどういうことだろうと思っていましたが、行ったらわかります。行動しないと経験できないから！

森山さん　社会人になっても行けると思うかもしれないけど、自分の将来を考えやすくなるので、ぜひ学生の時に行ってほしいです。言語に不安があると思うけど、友達が絶対に助けてくれるし、悩んでいる人はぜひ留学してみてください！

※リンネ大学との協定は、令和6年に終了しました。

特集

教育総合研究所「教師の魅力向上につながる学生支援プロジェクト」

学校の先生になろうプロジェクト

福教大「学校の先生になろうプロジェクト」って何？

学校の教員を目指す初等・中等・特別支援教育教員養成課程では、各学年に６００名以上の学生が学んでいます。しかし、クラスが異なると、サークル等を除けばなかなか知り合いになる機会がないのではないでしょうか。「学校の先生になる」という同じ夢を持って同じ大学で学んでいるのに、４年間お互いに知り合う機会がないまま過ごすのはもったいないですよね。

そこで、課程や学年の枠を超えて知り合う場をつくることを目的に、気軽に楽しくおしゃべりできるイベントの場をつくるのが、この「学校の先生になろうプロジェクト」です。

誰が、どんなことをしているの？

令和４年度から始まったこのプロジェクトは、**学生ボランティアが中心となって企画や運営を行っています。**学生同士がおしゃべりをしてつながる**「学内定例イベント」**と、学外の方とつながる**「特別企画イベント」**の２種類のイベントがあります。

学内定例イベント

学内定例イベントでは、「どうして福教大を選んだの？」「どんな先生になりたい？」「体験実習どうだった？」など、その時期に合わせたテーマについて、少人数グループで楽しくおしゃべりします。ただおしゃべりをするのではなく、活動やゲームを取り入れるので、初対面でも気楽に話せる和やかな雰囲気となり、すぐに笑顔や笑い声でいっぱいになりました。

新入生同士の交流

入学したばかりの1年生同士で、自己紹介や福教大を選んだ理由、出身地の紹介などについて語り合いました。参加してくれた1年生の皆さんは、初めは緊張気味でしたが、すぐに打ち解けましたよ。

参加者の感想

入学して顔は見たことあっても話をしたことがなかったので、話をすることができてよかったです。すぐに仲良くなることができました。

七夕に向けての交流

参加者が学校生活のことや将来のことなどについて、楽しくおしゃべりできるように、楽しいゲームや自分の思いや願いを短冊に書く活動を用意しました。活動してできあがった作品は、学内の掲示板で紹介しました。

参加者の感想

絵合わせゲームとおしゃべりで盛り上がりました。みんなの願いごとや今の思いを書いた短冊で、一つの作品を作り上げることができてよかったです。

すごろくを取り入れた交流

すごろくを取り入れ、体も動かしながらおしゃべりができる新たな活動を試みました。おしゃべりだけでも盛り上がりますが、参加者はサイコロを振ったり、バランスゲームをしたりしながら楽しむことができました。

参加者の感想

初めてこのイベントに参加しました。いろいろなテーマで教師を志す人と話をして、友達も増えました。ボランティアに関わってみたいなと思いました。

特別企画イベント

特別企画イベントでは、「福教大卒の1年目の先生とおしゃべり」を開催しました。昨年度、本学を卒業した小中学校の先生４名が来校し、参加してくださいました。

学校現場で活躍している先輩先生から直接話を聞くことができる、貴重な時間になりました！

詳しくはこちら↑

どんな質問にも、優しく丁寧に答えてくださいました！

学生ボランティアの紹介

このプロジェクトの企画・運営は、学生ボランティアの存在が欠かせません！プロジェクトのボランティア活動に関心がある人は、私たちと一緒に活動してみませんか？

私は大学1年7月のこのプロジェクト第1回から参加し、翌年2月から運営に携わってきました。3年間で多くの方々と出会い、語り合ってきました。大学の授業に出席するだけでは味わえない学びと楽しさを経験できます！今後もまた来たくなる楽しい交流イベントを実施していきますので、多数のご参加をお待ちしております！

初等教育教員養成課程3年　小川　晴太郎

このプロジェクトに参加して3年が経ち、最も感じているのは「つながり」です。私は1年の時「学校の先生になろう」という思いを語るイベントへの参加をきっかけに、ボランティアへ関わるようになりました。言葉にすることで生まれる人や気持ちのつながりを、企画や運営を通して実感しています。

初等教育教員養成課程3年　江藤　華

私は1年の6月からこのボランティアを始め、企画から運営までメンバーと協力しながら活動を続けています。イベントでは、小学生や学生、先生方と交流し、貴重な話を聞けるのがとても楽しく、充実感を得ています。また、司会進行やSNS運営、ポスター作成など、将来に活かせる経験ができることも大きな学びとなっています。

初等教育教員養成課程3年　鮎川　綾乃

私は以前イベントに参加したことがあり、その時がとても楽しくて、「私もこのボランティアに関わってみたい！」という思いからボランティアの一員になりました。この活動を通して、さまざまな人と関わることができ、私自身の教員になりたいという思いがより強くなりました。そして、何より同じ志をもった仲間と繋がれるところが、とてもいいところだと思ってます！

初等教育教員養成課程3年　古賀　芹奈

私は元々、このイベントに参加していた側でした。しかし、“教師”という同じ夢を持っている人ともっと関わりたい、関わる機会をもっと提供したいと思い、このボランティアに参加しました。また、元々大学ではボランティア活動に力を入れたいと思っていました。この活動を通して、企画力や運営力を向上させたいと考えています。

初等教育教員養成課程3年　今泉　友希

私が「学校の先生になろうプロジェクト」のイベントに参加した時に、ボランティアの先輩方が楽しい企画や運営をしてくださいました。だから、今度は自分が企画や運営に関わってみたいと思い、ボランティアに参加しました。毎週の定例会での話し合いではいろんな意見が出るので、楽しい充実した時間となっています。

初等教育教員養成課程1年　舩木迫　貴仁

これからも、イベントを開催していきます。
詳しくは、学内に掲示されるポスターやXやInstagramをチェック！！

X　　Instagram

本プロジェクト担当者

教育総合研究所
准教授　立川　嘉彦

県内公立学校教諭、福岡県教育センター・春日市教育委員会指導主事、公立学校教頭を経て令和6年4月から現職

学生広報チームi-na!が取材!

福岡教育大学 演劇部ってどんなとこ？

Q1 演劇部はどのような方が所属していますか。

初等や中等、特支など様々な課程に所属する部員がいます。それぞれが自分の色を持っていて、互いが互いを尊重しあえる個性豊かな部員たちが揃っています。

Q2 日頃の活動は何をしていますか。

自分たちで書いた脚本をもとに、演出、役者、音響、照明というような役割に分かれて、定期公演に向けて日々練習に励んでいます。

Q3 脚本を書くのは難しくないですか。

わかりやすい内容、個性のあるキャラ、テンポの良い会話、伏線回収と考えることはいっぱいで難しいですが楽しいです。

Q4 活動する中で大切にしていることはありますか。

助け合い精神です。部員の悩みに仲間が親身になって相談に乗ってくれます。また、見に来てくれたお客様に演劇を楽しんでもらうためにも、私たち自身が演劇を全力で楽しむことを心掛けています。

福教大生や学外の方に一言

春夏秋冬、老若男女問わず、部員を募集しています。また、一年を通して公演していますので、ぜひご来場ください！

ソフトテニス愛好会

中等教育教員養成課程英語専攻2年
吉村 心（よしむら しん）

現在、私たちソフトテニス愛好会は、男女総勢59名でサークル活動をしております。サークルには1年生から4年生までの幅広い学年と課程の学生が所属しています。

活動は毎週木曜日の週に1回で、宗像市にある宗像ユリックスで主に活動しています。活動への参加は自由となっており、毎週違うメンバーでサークル活動を行っているので、様々な学生との交流が深まります。6~8人のチームを4チーム作り、それぞれのチームごとに団体戦を行っています。ソフトテニス経験者や初心者などのバランスを考えてチームを作っているので、ソフトテニスを経験したことのない人でも、サークルを通してどんどん上手になること間違いなしです。ソフトテニス愛好会は、ソフトテニス未経験の学生の割合も半分以上ですが、初めは思うようにプレーできなかった人もサークルを通して見違えるくらい上達しています。

さらに、毎月ソフトテニスの活動以外での楽しいイベントも開催しており、学年や課程の垣根を越えて仲良くなれる機会もあります。

ソフトテニス愛好会に興味を持っていただいた方はソフトテニス愛好会の公式Instagram(@utef_sofai)をチェックしてみてください。

UTEF_SOFAI

サークル紹介
CIRCLE INFORMATION

ゆかいくらぶ

初等教育教員養成課程3年
釜崎 杏依莉（かまさき あいり）

こんにちは、ゆかいくらぶです。私たちは、男子9名女子35名で活動しています。ゆかいくらぶは、宗像市周辺の小学校の子どもたちと月に1回レクリエーションを行うボランティア系サークルです。主に、レクリエーションや工作を行っています。1年生から6年生まで様々な学年の小学生が参加しています。去年は、体育館全面を使ったすごろくや障害物リレー、塩キャンドル作り、まつぼっくりツリー作りを行いました。これらの活動を毎月学生たちで話し合い企画したり、活動で使う道具作りを行ったりしています。主に、第2日曜日に学生だけで活動を行い、活動内容を確認したり、　活動に参加してくれる子どもの様子を学生で共有したりします。その後、第4日曜日に子どもと一緒に活動しています。子どもたちだけではなく、保護者の方まで関わることができるため、将来教師を目指す私たちにとってとても良い経験になります。子どもが大好き！子どもたちと沢山遊びたい！という方は、ぜひゆかいくらぶに来てください！毎月の活動内容などをInstagramに載せているので@yukai-kurabuをのぞいてみてください。

YUKAI_KURABU

福教大 News
UTEF

1 パリ2024パラリンピック柔道73kg級で金メダルを獲得した瀬戸勇次郎さんが学長室を訪問

パリ2024パラリンピックで柔道73kg級（J2）に出場した瀬戸勇次郎選手が、令和6年9月20日（金）に、柔道部顧問の楢﨑教子教授（保健体育研究ユニット）とともに学長室を訪問し、金メダルを獲得したことを報告しました。

瀬戸選手は本学の卒業生であり、4年生の時に出場した東京2020パラリンピックでは、66kg級で銅メダルを獲得しています。

瀬戸選手より、東京大会での銅メダル獲得を報告した3年前を振り返り、「3年前、次は金メダルを取ってくると宣言し、それを有言実行できてうれしい。」と述べられました。また、役職者との懇談及びメディアの取材の中で、支えとなった柔道部メンバーのことや、階級変更のこと、試合中のメンタル的な部分等について、興味深い話を聞くことができました。

瀬戸選手は学長室での報告後、本学在学時に所属していた柔道部の練習に参加されました。

瀬戸勇次郎さんと楢﨑教授

2 地域移行の美術部としてムナカタアートクラブが始動

部活動の地域移行に向けた活動として、美術教育研究ユニットの教員と学生による、ムナカタアートクラブが令和6年10月20日（日）より開講しました。

3月まで、半年間かけて計10回の活動を、本学の大学院美術棟　美術演習室にて実施しています。

ムナカタアートクラブでは、美術教育研究ユニットの教員及び美術専攻の学生が指導者として、各回をリレー形式で担当しています。美術の制作経験等を問わず、宗像市在住の中学1・2年生（小中一貫校7・8年生）を対象として、学生による油絵体験や、大学教員による専門的な指導を行っています。

本活動は、福岡教育大学教育総合研究所の研究プロジェクト「中学校部活動の地域移行に関する基盤研究-文化系部活動における美術を事例とした調査と実践について-」の研究として取り組んでいます。

また、学生による指導では、宗像市の「令和6年度 大学生の力によるまちの課題解決プロジェクト」による「美術部の地域移行プロジェクト」として実施しています。

ムナカタアートクラブ　活動の様子

3 うきうきTeacher!～教師の魅力発見プログラム～を開催

令和6年10月26日（土）に本学主催による「うきうきTeacher！～教師の魅力発見プログラム～」を開催しました。本イベントは、社会的・職業的自立を目指すキャリア教育の一環として、小・中学生に教師という職に興味や関心をもってもらうことを目標としており、小学校5年生から中学校3年生までの児童・生徒約160名が参加しました。

イベントでは、本学教員の専門的知識や技能を活かした10のプログラムを実施しました。

参加の小・中学生は、各プログラムをとおして、教師の仕事の一端を体験し、人に教えることの難しさや楽しさを学びました。参加者からは、「学校の授業だけでは体験できないことができて楽しかったです。」といった声があり、保護者からも「いきいきとした学生さんたちの様子が印象的でした。講座の内容だけでなく、そういう学生さんの姿に出会えたことが大きな財産になったと思います。」といった声がありました。また、当日サポート役を務めた学生からは「学校現場とは異なる環境での子どもの様子を見ることができた点や、幼稚園施設を見学する機会に恵まれたことはとても良い経験となりました。」といった声が聞かれました。

本学では、今後も教師の魅力を体験できるようなプログラムを充実させ、本事業をより発展的に取り組んで参ります。

うきうきTeacher!　プログラムの様子

4 附属小倉中学校3年生が本学で「校外キャリア学習」を実施

令和 6 年 11 月 25 日（月）、「校外キャリア学習」の一環として、本学の附属小倉中学校 3 年生 120 名が来学し、模擬授業の受講や大学生との交流を行いました。

来学した中学生たちは、教育心理研究ユニットの生田教授の模擬授業、「21世紀スキルで未来を開く～問う力を高めるワークショップ」を受講しました。未来を生きる子ども達に必要なことの一つとして、「問う力」にスポットをあて、探究のための問い、コミュニケーションのための問いがあることなどの講義を受け、グループワークを行いました。そして、学生ボランティアとして参加した 11 名の学生が、各班の「ベストクエスチョン」に応え、交流を深める活動を行いました。

中学生も大学生も、最初は緊張気味でしたが、「現実の大学生活と、高校生の時に思い描いていた大学生活との違いは何ですか?」など、しっかり練られた中学生からの質問をもとに、話が広がり、コミュニケーションを楽しんでいました。参加した中学生も、「問う」ことの大切さがわかり、大学生活についてイメージが持てたとの声が聞かれました。

生田教授による模擬授業の様子

5 租税教育を担う教員養成助成金の目録贈呈式を実施

令和 6 年 12 月 9 日（月）、本学において租税教育を担う教員養成助成金の目録贈呈式が執り行われました。この助成金は、将来の租税教育を担う教員養成のため、大学における教育・研究活動費用の助成を目的として、日本税理士会連合会が教員養成大学等に寄附を行っているもので、本学ではこの助成を受けて令和7年度に「租税教育」を開設する予定としています。

贈呈式では、日本税理士会連合会の太田直樹会長及び九州北部税理士会の丸山二也会長からのご挨拶後、飯田学長に目録が贈られました。

飯田学長から、謝辞とともに「この助成金を有効に活用し、将来の租税教育を担う教員の養成に取り組んでいきたい」と決意が述べられました。その後、出席者での歓談となり、和やかな雰囲気の中、租税教育に関する意見交換が行われました。

目録贈呈の様子

6 SDGsクラブの学生が「サステナブルな地域経済社会の実現に向けた企業×学生セミナー」に参加

「サステナブルな地域経済社会の実現に向けた企業×学生セミナー～企業が本気で取り組む環境の最前線を知る～」が、12月11日(水)、オンラインと対面のハイブリッド方式で開催され、本学のSDGsクラブの学生2名が福岡市の会場に参加しました。

このイベントは、環境省と一般社団法人 九州経済連合会が主催するもので、九州の企業を講師に迎え、企業の地域課題・環境課題解決の取組に関心のある大学生・大学院生を対象に、環境経営について理解を深めることを目的としています。気候変動をはじめとする近年の環境危機が顕在化するなか、自然資本（環境）こそが経済社会活動の基盤であり、持続可能な社会の実現が必要であるとの認識が企業の間にも広まっています。こうした社会動向を踏まえ、環境省九州地方環境事務所の方、トヨタ自動車九州の方の講話とグループワークが行われました。グループワークでは、トヨタの社員になったつもりで、企業としての脱炭素化の取組について考えるとともに、九州経済連合会、環境省の方を含めた参加者同士のディスカッションで、学生達の知識の拡充や、見方・考え方を広げ深める好機となりました。

本学は ESD 活動支援センターの「地域 ESD 活動推進拠点」に登録されています。ESDとは「Education for Sustainable Development＝持続可能な開発のための教育」を指し、地域 ESD活動推進拠点は、様々なレベルで分野横断的に協働・連携して ESDを推進することを目的としています。

また、本学も参画している「九州地区再生可能エネルギー連携委員会」では、九州・沖縄地区の 11 国立大学が協働して 2050 年のカーボンニュートラル社会の実現に向けて取組を進めており、大学間の連携のみならず、行政や企業などとも幅広く連携していく必要性が強調されています。この度の環境省と九州経済連合会との主催事業への本学学生の参加は、この取組の趣旨に沿ったものでもあります。

本学は教員養成大学として、「脱炭素化に向けた人材育成」をキーコンセプトとして、SDGs 達成に向けたイノベーションの社会実装のための人材育成に向けた取組を進めています。

本セミナーに、初等・中等教育を担う教師の卵である学生が参加したことは、意義深いものであるといえます。

このセミナーで、地域での経済活動の具体をとおして、環境問題を考える視座が得られ、「環境」への意識の高まりなど、教師を目指す本学学生に多くの学びがありました。

この経験を一つの契機として、地域 ESD 活動推進拠点としての今後の本学での学びが深化していくことが期待されます。

座談会の様子

教員紹介 & 学生から見た先生の魅力

国語教育研究ユニット
教授　荻野（おぎの）　千砂子（ちさこ）
最終学歴：九州大学大学院人文科学府
博士後期課程単位修得満期退学
取得学位：博士（文学）
本学着任：2015年

一つ一つの小さなことばが歴史を背負っている

専門の研究テーマ

専門は「国語学」で、「ことば」について研究をしています。フィールドワークの場所は、主に奄美・沖縄です（琉球方言の地域）。琉球方言と古典語を対比させたり、日琉祖語（日本語と琉球方言の祖先にあたる語）を考察したりしています。また、近年は、福岡や大分の方言調査もしています。

マイクをつけて調査中：沖縄県竹富町黒島にて

大学教員に進むことになったきっかけ

昔、中学・高校の教員をしていました。あるとき、古典のテストで掛詞の問題を出したんです。そうしたら、クラスの半分ぐらいの生徒が、辞書の意味とは異なる解釈をしていました。そこで、その単語の用例を複数集めて分析してみると、生徒たちの解釈の方がよいような気がしました。でも、採点で他の教員から「辞書に載っていない意味は、正解にできない」と指摘が……。そのときのもどかしさが、研究者を目指す引き金となりました。

研究成果の教育への還元

古典のことばは、方言の中にたくさん残っています。例えば、沖縄では家のことを方言で「ヤー」と言います。『万葉集』に家のことをヤと言った例があります。でも、私たちにとって、『万葉集』の古典語は馴染みのないことばです。しかし、実はヤの場合、「我が家（わがや）」や、「屋根（やね）」のように、現代語にも残っています。化石のように、別の語とくっついたために残れたのでしょう。こう説明すると、学生は、琉球方言の「ヤー（家）」に、日本語の歴史を感じるようです。

授業終了後：今日の内容を確認しています

こだわりの物・考え・モットー

千里の道も一歩から：　自分にできることを一つずつ、丁寧に考えて、形にしていくこと。

学会発表の練習中

福岡教育大学で学ぶ学生に一言

何事も突き詰めていくと、最後に新しい別の扉が開きます。だから、終わりを考えないでほしいです。「ここまですれば終わり。」ではなく、「あそこまで行ったら、その次は何があるのか？」という好奇心を持ち続けてほしいと願っています。

学生から見た先生の魅力

鶴瀬（つるせ） 貴視（たかし）さん（中等教育教員養成課程　国語専攻4年）

琉球語の演習や、室町時代語の狂言の演習を通して、文献の調べ方や論の立て方などを、きめ細やかに指導してくださいます。古典語と現代語、共通語と方言など、高校生までは別々に捉えていたものが、実は深く関連し合っているということを、学ぶことができました。「ことば」の面白さを伝えることができる教師になりたいと思います。

下地（しもじ） 雄斗（ゆうと）さん（中等教育教員養成課程　国語専攻4年）

先生は地域の文化活動にもアクティブに参加しています。ルーム生に文化継承のあり方を見せてくれるところが一番の魅力だと思います。また、ルームの日程を学生の先々の予定まで見据えて計画してくださる面倒見が良い一面もあります。

附属学校のイメージ

皆さんは「附属」と聞いてどんなイメージをもちますか。大変、厳しい、忙しい・・・マイナスなイメージをもっている方も多いかもしれません。しかし、そんなことありません！私の10年間の教職経験の中で、今が一番ライフワークバランスがとれていると感じています。確かに、研究には高いレベルが求められます。ただ、それは「附属」だから必要なことではなく、どこの学校でも同じレベルで行われるべきものです。大学の先生方や、志の高い同僚の先生方、様々な研究成果物や設備・・・授業力を磨ける環境がここにはあります。また、学生の頃から続けている「音楽活動」も積極的に行っています。

音楽活動の様子

教育実習の先生方から学ぶこと

附属学校の使命の一つに、「教育実習」があります。教育実習の先生方は、未来の教育を担うかけがえのない存在です。先生方は「こんな力を身につけてほしい！」と、目の前の子どもたちに全力で関わっています。そのような姿を目の当たりにすると、私自身も学ばせてもらうとともに、先生方のよりよい授業づくりに尽力したいというエネルギーが湧いてきます。教育実習後に「教師になりたい」という言葉を聞けると、心から幸せな気持ちになります。

授業の様子

特別支援学級での授業実践

困ったときは、ぜひ附属福岡中学校へ！

本校では毎年11月に、教育研究発表会を行っています。しかし、研究発表会だけが教育実践の全てではありません。年間を通して、子どもたちと楽しく、そして学びのある授業づくりに励んでいます。日頃の授業を見てみたいとき、卒業論文の作成においてデータや実践例が必要なとき、様々な場面で皆さんのお手伝いができたらと思います。私も卒業生の一人として、後輩の皆さんのサポートをさせていただきます。

卒業式

福岡教育大学附属福岡中学校
教諭　柚木（ゆのき）　大樹（だいき）さん
・中等教育教員養成課程英語専攻
（平成26年卒業）

アンケートに答えて福教大オリジナルグッズをGET！

今後のよりよい誌面作りのため、皆様からのご意見・ご感想をお寄せください。
アンケートにご協力いただいた方の中から抽選で5名様に『福岡教育大学オリジナルグッズ3点セット』をプレゼントします。
※当選者の発表はプレゼントの発送をもってかえさせていただきます。

こちらのフォームからご応募ください。

応募締切
令和7年5月31日(土)

＜アンケートにおける個人情報の取扱について＞
ご提供いただいた個人情報は、プレゼントの発送以外には使用致しません。

抽選で5名様に

福岡教育大学オリジナル
サインペン＆ボールペン＆メモ帳

編集後記

学生広報チームi-na!です。今回は演劇部のみなさんに取材させていただきました。取材では自分たちで一から公演を作り上げることを楽しんでいる様子が伝わってきました。演劇部の魅力が伝わるページになっていると思います。取材を快く引き受けてくださった演劇部の皆さんにお礼申し上げます。

私たちはInstagramでも福教大生の生活について紹介しています。ぜひフォローをお願いします！！

また一緒に活動するメンバーも募集していますので、興味のある方は気軽にご連絡ください！

⇩このような投稿をしています！

@UTEF.I_NA_
i-na! Instagram

福岡教育大学基金のご案内

福岡教育大学では、教育研究の更なる発展や充実を図ることを目的として、「福岡教育大学基金」を設けております。
特に「修学支援事業基金」では、経済的理由により修学に困難がある学生が、希望する教育を受けられるように、
皆様からいただいたご寄附を、学生のために特化して活用します。
寄附をされる際に、「修学支援事業基金」と事業を特定してください。
広く教育界、産業界、地域の皆様方に、本基金への格別のご理解とご支援を末永く賜りたく、お願いを申し上げます。

公式ホームページ 福岡教育大学基金 検索

インターネット（クレジットカード払い）による寄附金の受付を開始いたしました。

お問い合わせ先
福岡教育大学財務企画課
TEL:0940-35-1218　FAX:0940-35-1701　E-mail:kaihosa@fukuoka-edu.ac.jp

Campus Letter
キャンパスからの便り

後援会

「後援会だより」第90号発行のお知らせ

「後援会だより第90号」を12月に発行し皆様に送付しました。今回は就職支援・教員採用試験・教育実習や3年に一度の芸能人を招いての学祭などについて掲載しています。

ご意見ご要望などがございましたら、下記事務局までご連絡ください。

福岡教育大学後援会　事務局
Tel/FAX：0940-33-8070
e-mail：kouenkai@eos.ocn.ne.jp

大学院教育学研究科

令和7年度より博士後期課程を設置します

臨床的な研究力と教員養成の学識を備えた「教員養成担当大学教員」や「教員研修担当者」等を養成するため、大規模な単科の教員養成大学である北海道教育大学、大阪教育大学及び福岡教育大学の3大学が、共同教育課程の制度を用いた博士後期課程を、令和7年4月に設置します。

詳細はこちら→

同窓会城山会（じょうやまかい）

「瀬戸勇次郎氏金メダル獲得祝賀会」を開催

城山会では、2024パリパラリンピック柔道で金メダルを獲得された瀬戸勇次郎氏の祝賀会を12月14日(土)、ANAクラウンプラザホテルで実施しました。瀬戸選手の小学校時代からの指導者、大学の梅澤敦理事や教授の方々、福岡県下の同窓生等、総勢50名が参集し、瀬戸氏の健闘を称え喜びを分かち合いました。瀬戸氏は、令和7年4月から福岡県立高校の教員として教職に就かれる予定です。参会者全員が瀬戸氏の今後の活躍と城山会の発展を祈念する楽しい会となりました。

福岡教育大学同窓会　城山会事務局
TEL・FAX：0940-33-2211
E-Mail：jouyamakai@able.ocn.ne.jp

大学院教育学研究科

令和7年度、教職大学院に特別支援教育向上コースが誕生します！

令和7年4月より、高度な特別支援教育の指導の力量育成と校内や校外の特別支援教育をコーディネート、指導できるリーダーを育成する特別支援教育向上コースが教職大学院に誕生します。特別支援学校教員として高度な実践を行える人材、特別支援学校の支援体制を推進できるスクールリーダーおよび通常の学級・通級指導教室・特別支援学級での特別支援教育を推進できるスクールリーダーの育成を目指します。

詳細はこちら→

Joyama 通信　vol.57

福岡教育大学広報誌第57号 2025年3月25日
編集発行: 国立大学法人 福岡教育大学 経営政策課

〒811-4192　宗像市赤間文教町1-1
TEL.0940-35-1205　FAX.0940-35-1259
e-mail: kouhou@fukuoka-edu.ac.jp
ホームページ: https://www.fukuoka-edu.ac.jp/

福岡教育大学
イメージキャラクター
フッキー

大学HP　X　YouTube

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。